

**令和5年度**  
**稚内市**  
**観光入込客数状況**

**稚内市**  
**(令和6年6月)**

# 目次

I. 観光入込客数の概要 .....	1
(1) 総合的な観光入込客数の状況 .....	1
(2) 道内客・道外客別の状況.....	2
(3) 日帰り客・宿泊客別の状況.....	3
(4) 外国人宿泊客延数の状況.....	5
II. 観光客動態調査（アンケート）分析.....	6
(1) 地域別観光客の入込状況.....	6
(2) 年代別観光客の入込状況.....	7
(3) 男女別観光客の入込状況.....	7
(4) 旅行日程別観光客の入込状況 .....	8
(5) 市内宿泊状況別観光客の入込状況.....	8
(6) 市内宿泊日数別観光客の入込状況.....	9
(7) 訪問観光地点別観光客の入込状況.....	9
(8) 利尻島・礼文島訪問状況別観光客の入込状況.....	10
(9) 旅行形態別観光客の入込状況 .....	10
(10) 交通手段別観光客の入込状況.....	11
(11) 来稚回数別観光客の入込状況.....	11
(12) 旅行理由別観光客の入込状況.....	12
(13) 近隣市町村観光地点訪問状況別観光客の入込状況.....	12
III. 総合的な検証 .....	13
(1) 観光入込客数状況 .....	13
(2) 観光入込客数の内訳.....	13
(3) 今後の取り組み.....	13
IV. 資料	
(1) 観光入込客数総表 .....	15
(2) 外国人宿泊客数総表.....	16

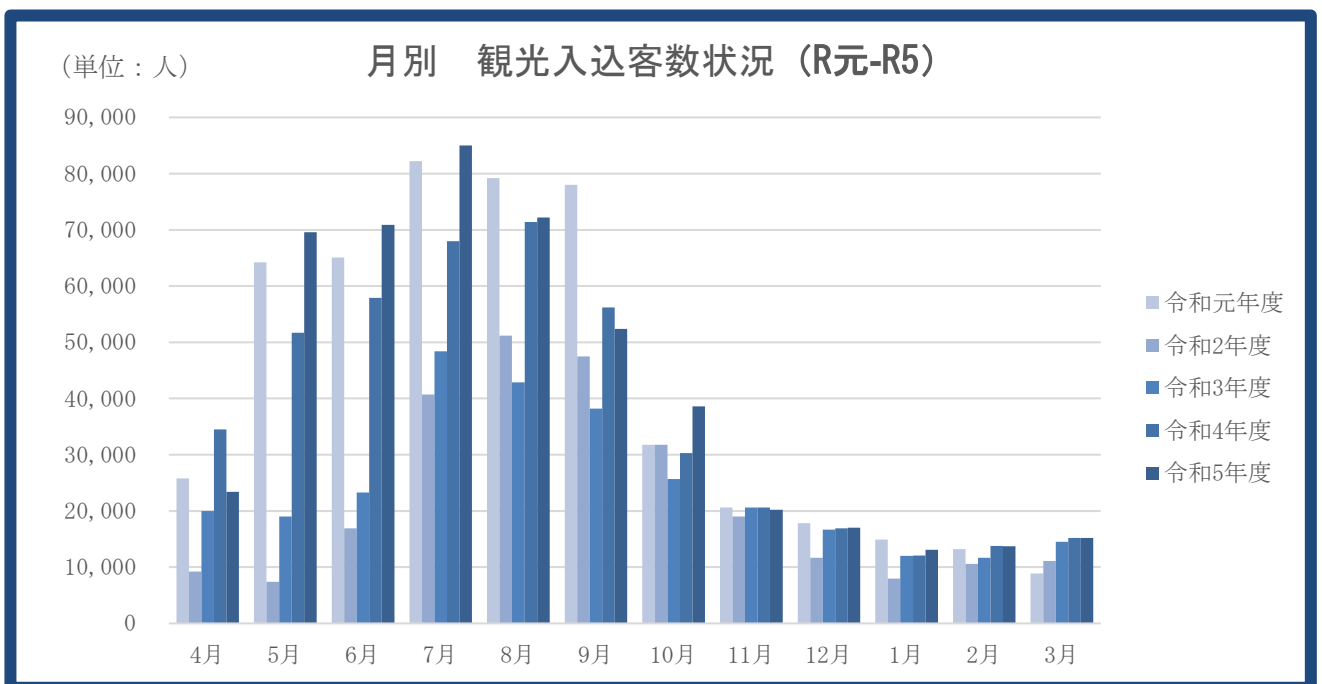
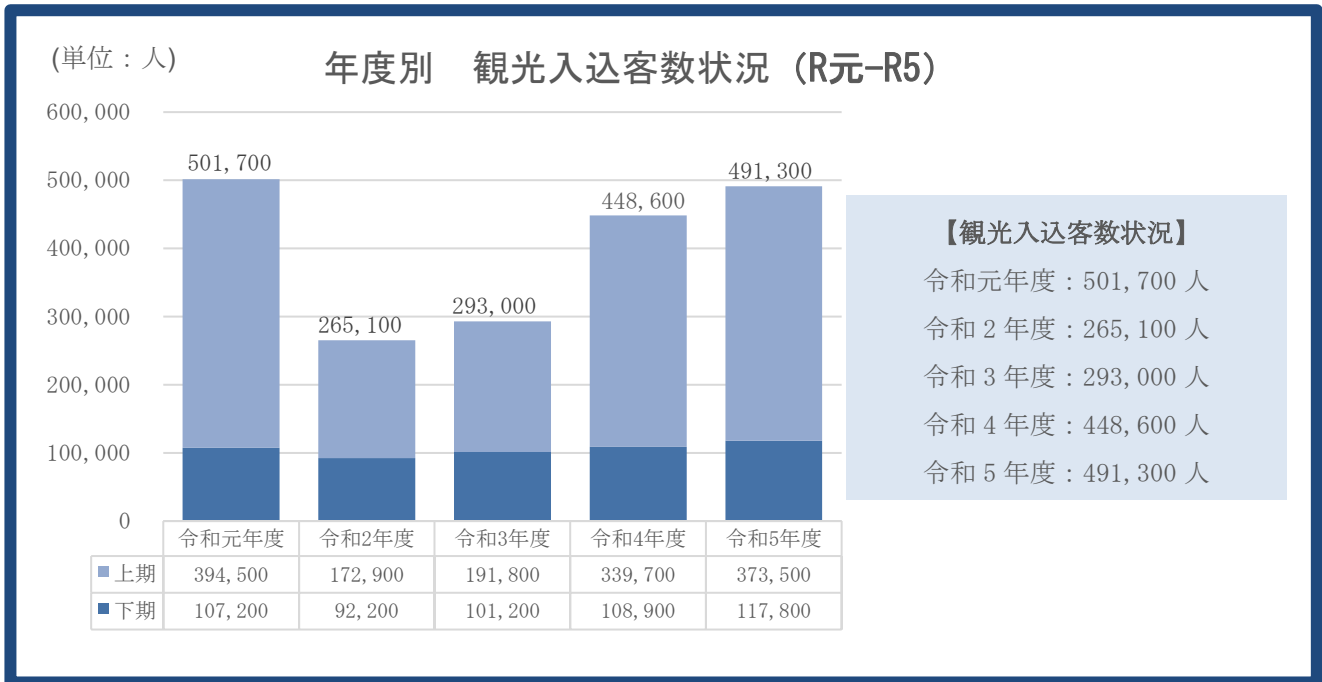
## I. 観光入込客数の概要

### (1) 総合的な観光入込客数の状況

令和5年度観光入込客数は、総数 491,300 人で、前年度の 448,600 人より 42,700 人増加、前年度比 109.5%となった。

【上期】 373,500 人で前年度の 339,700 人より 33,800 人増加、前年度比 109.9%。

【下期】 117,800 人で前年度の 108,900 人より 8,900 人増加、前年度比 108.2%。



## (2) 道内客・道外客別の状況

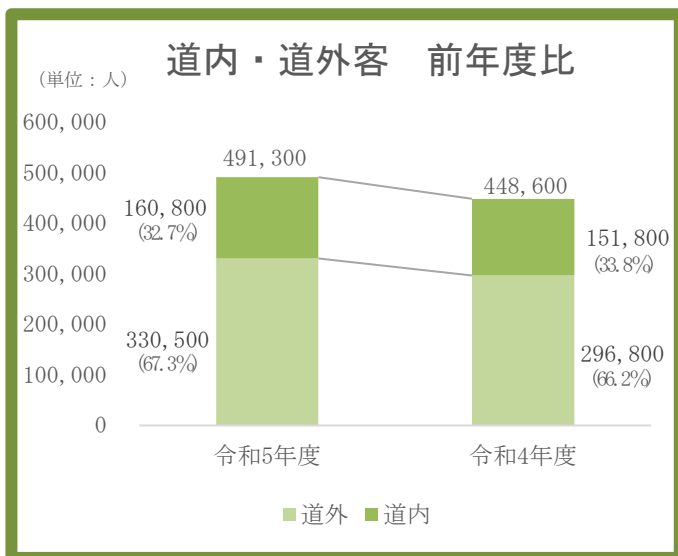
道内客は160,800人で前年度の151,800人より9,000人増加、前年度比105.9%、道外客は330,500人で前年度の296,800人より33,700人増加、前年度比111.4%となった。

【上期】道内客は120,200人で前年度の112,600人より7,600人増加、前年度比106.7%。

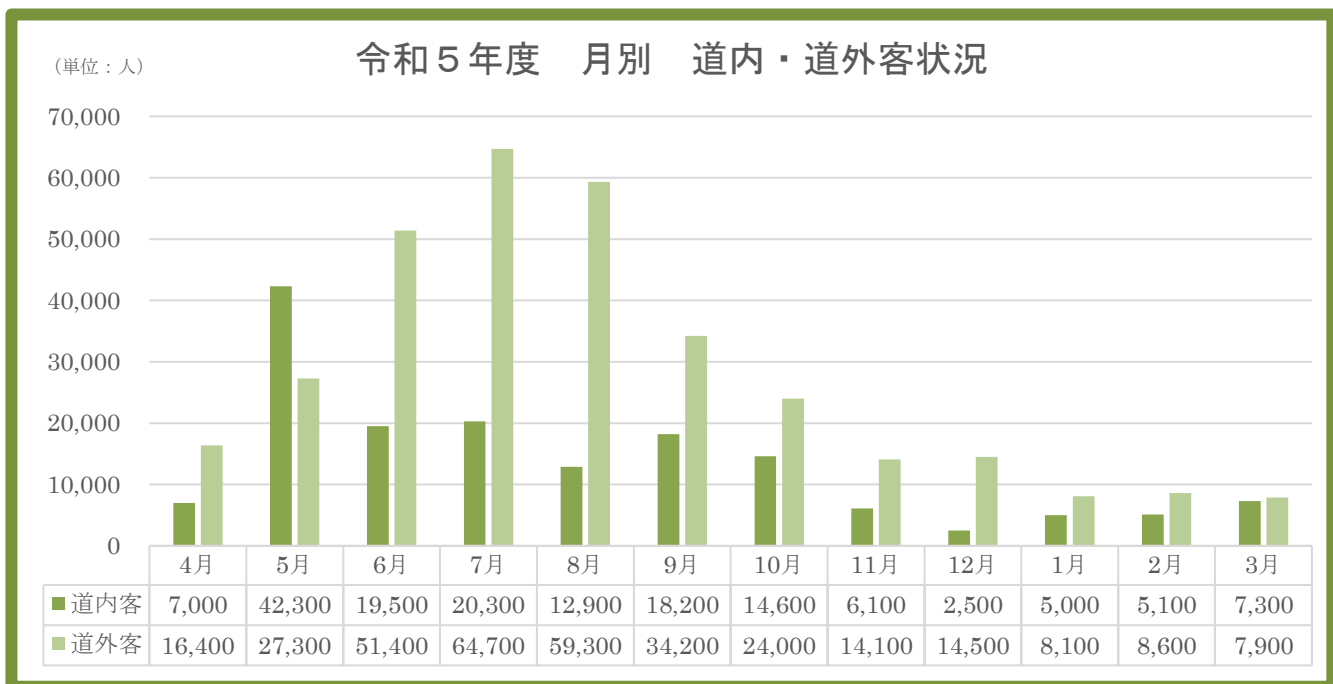
道外客は253,300人で前年度の227,100人より26,200人増加、前年度比111.5%。

【下期】道内客は40,600人で前年度の39,200人より1,400人増加、前年度比103.6%。

道外客は77,200人で前年度の69,700人より7,500人増加、前年度比110.8%。



区 分		令和5年度	令和4年度
道内客	上期	120,200人	112,600人
	下期	40,600人	39,200人
道外客	上期	253,300人	227,100人
	下期	77,200人	69,700人
上期合計		373,500人	339,700人
下期合計		117,800人	108,900人
合 計		491,300人	448,600人



### (3) 日帰り客・宿泊客別の状況

日帰り客は225,400人で前年度の188,500人より36,900人増加、前年度比119.6%となった。

【上期】200,400人で前年度の170,000人より30,400人増加。前年度比117.9%。

【下期】25,000人で前年度の18,500人より6,500人増加。前年度比135.1%。

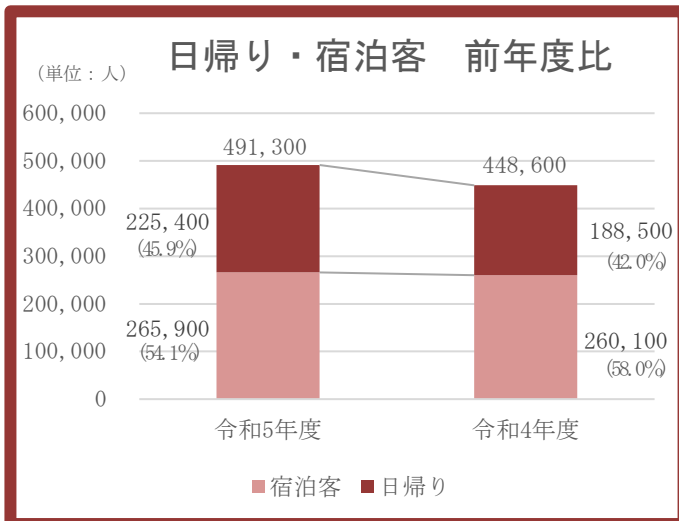
宿泊客は265,900人で前年度の260,100人より5,800人増加、前年度比102.2%となった。また、宿泊客延数は351,900人泊で前年度の333,300人泊より18,600人泊増加、前年度比105.6%となった。

【上期】宿泊客は173,100人で前年度の169,700人より3,400人増加、前年度比102.0%。

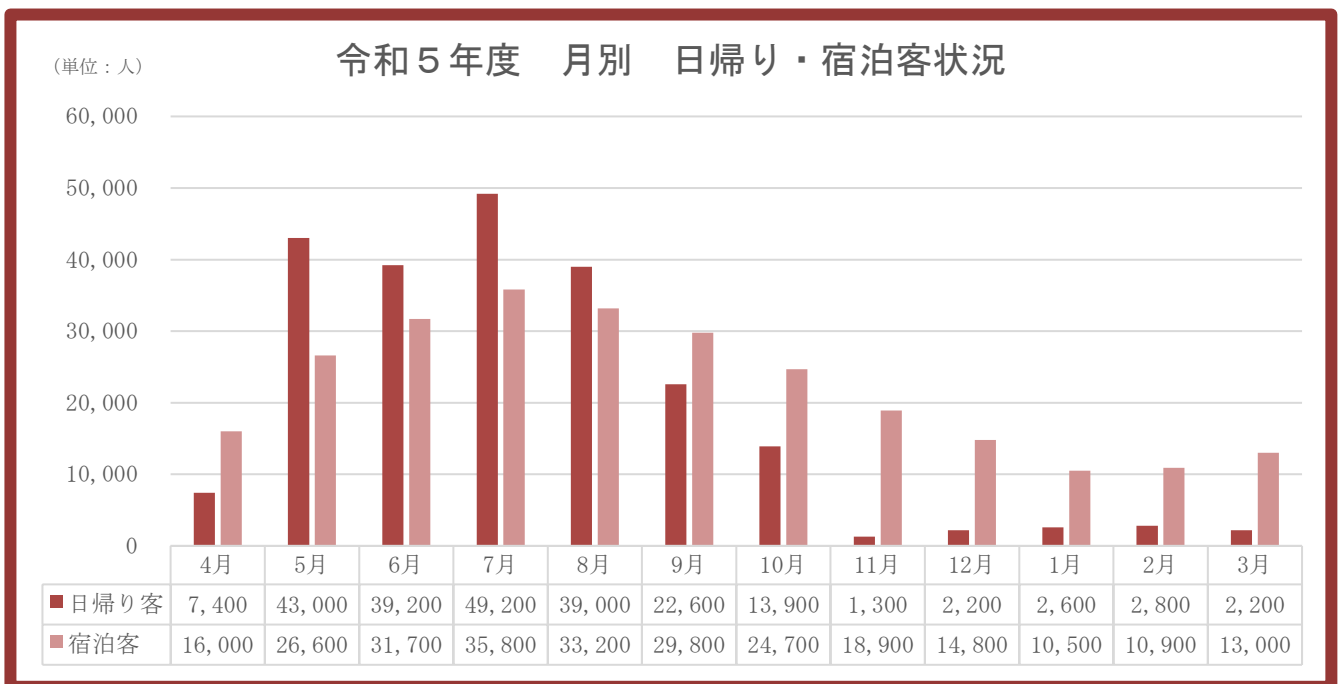
宿泊客延数は234,500人泊で前年度の220,200人泊より14,300人泊増加、前年度比106.5%。

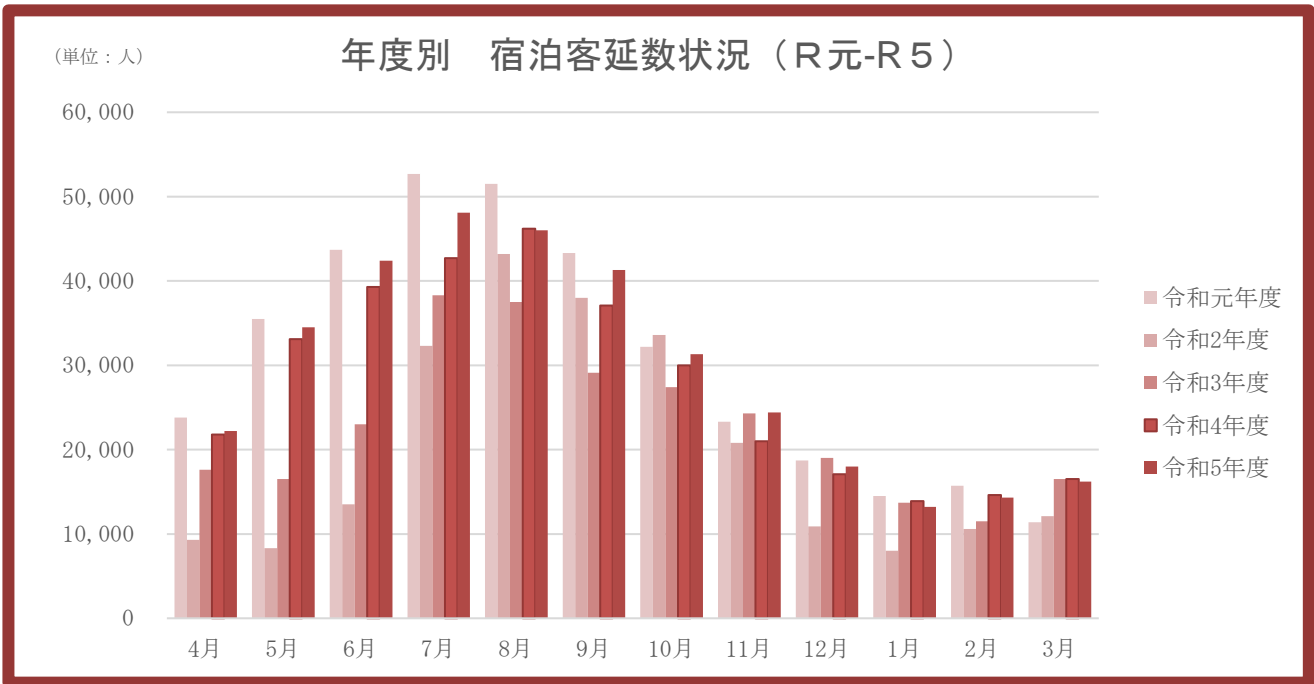
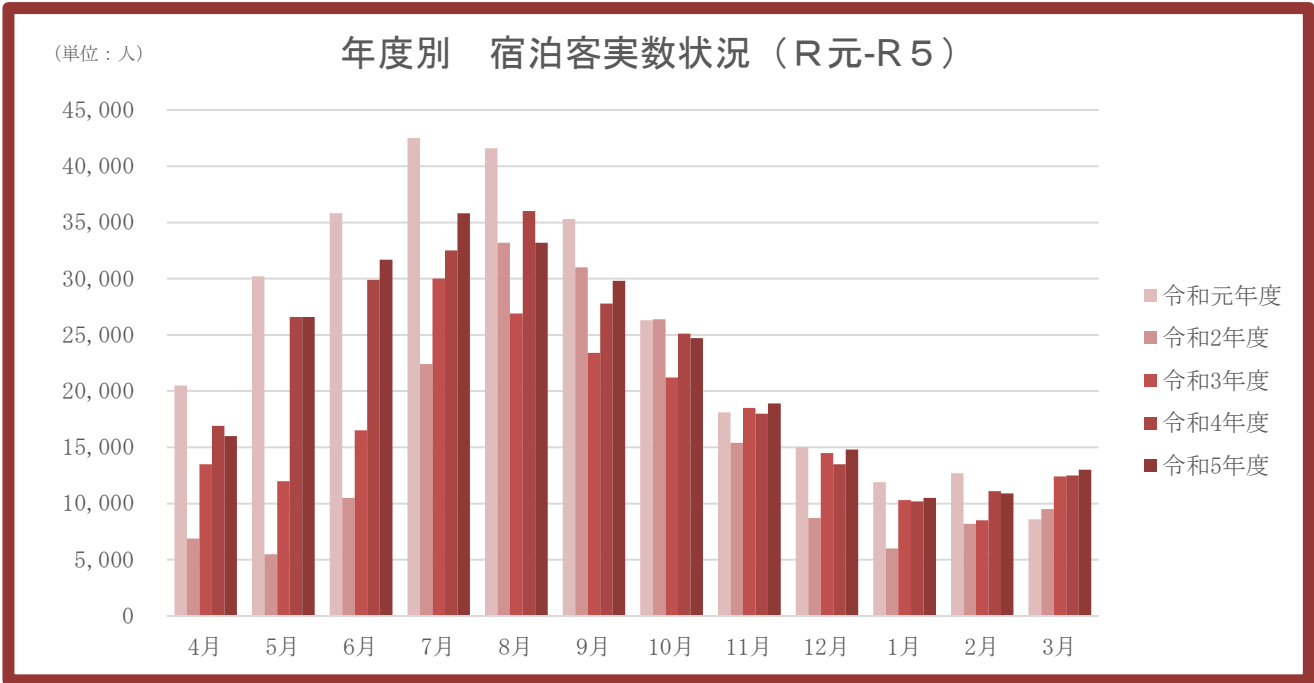
【下期】宿泊客は92,800人で前年度の90,400人より2,400人増加、前年度比102.7%。

宿泊延数は117,400人泊で前年度の113,100人泊より4,300人泊増加、前年度比103.8%。



区分		令和5年度	令和4年度
日帰り	上期	200,400人	170,000人
	下期	25,000人	18,500人
宿泊	上期	173,100人	169,700人
	下期	92,800人	90,400人
上期合計		373,500人	339,700人
下期合計		117,800人	108,900人
合計		491,300人	448,600人





【宿泊客状況（実数）】

	上期	下期	合計
令和元年度	205,900人	92,600人	298,500人
令和2年度	109,500人	74,200人	183,700人
令和3年度	122,300人	85,400人	207,700人
令和4年度	169,700人	90,400人	260,100人
令和5年度	173,100人	92,800人	265,900人

【宿泊客状況（延数）】

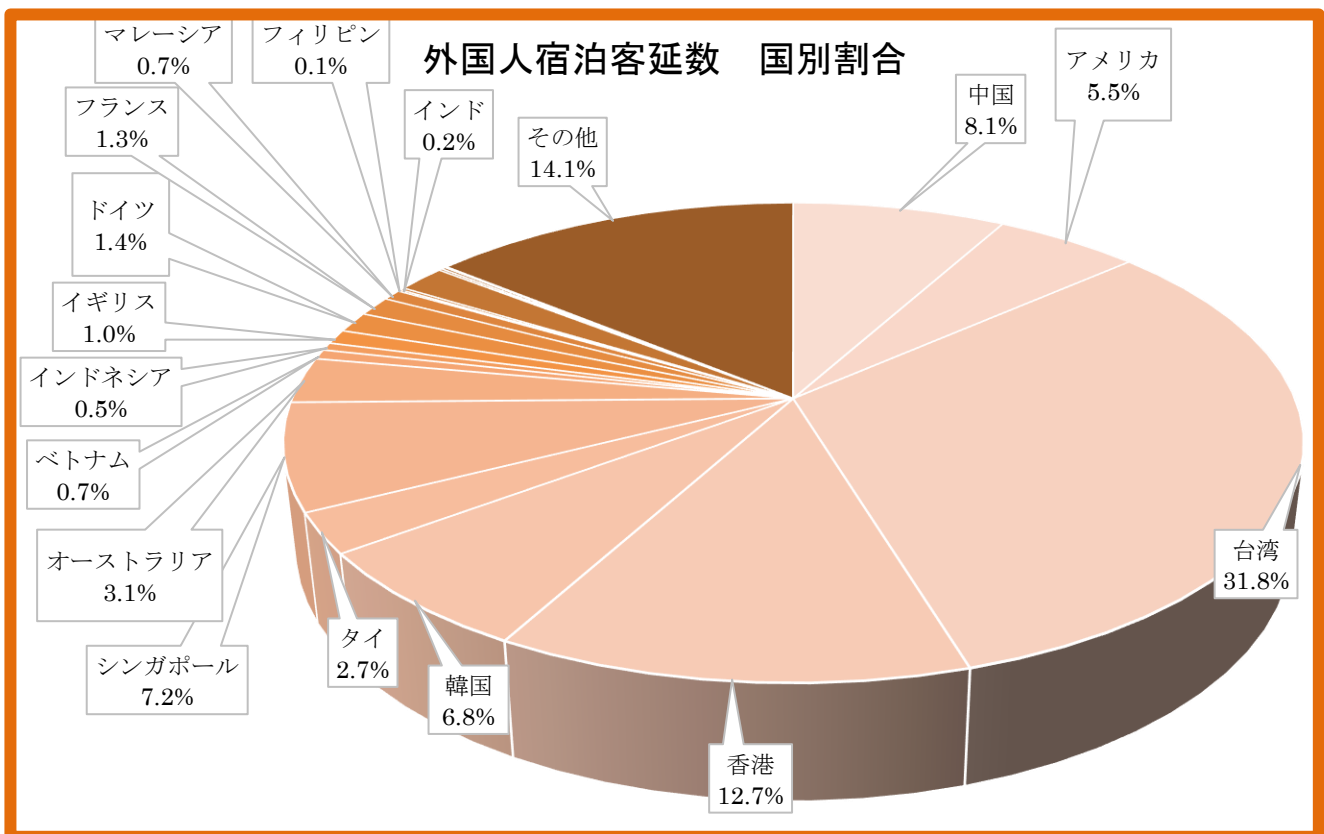
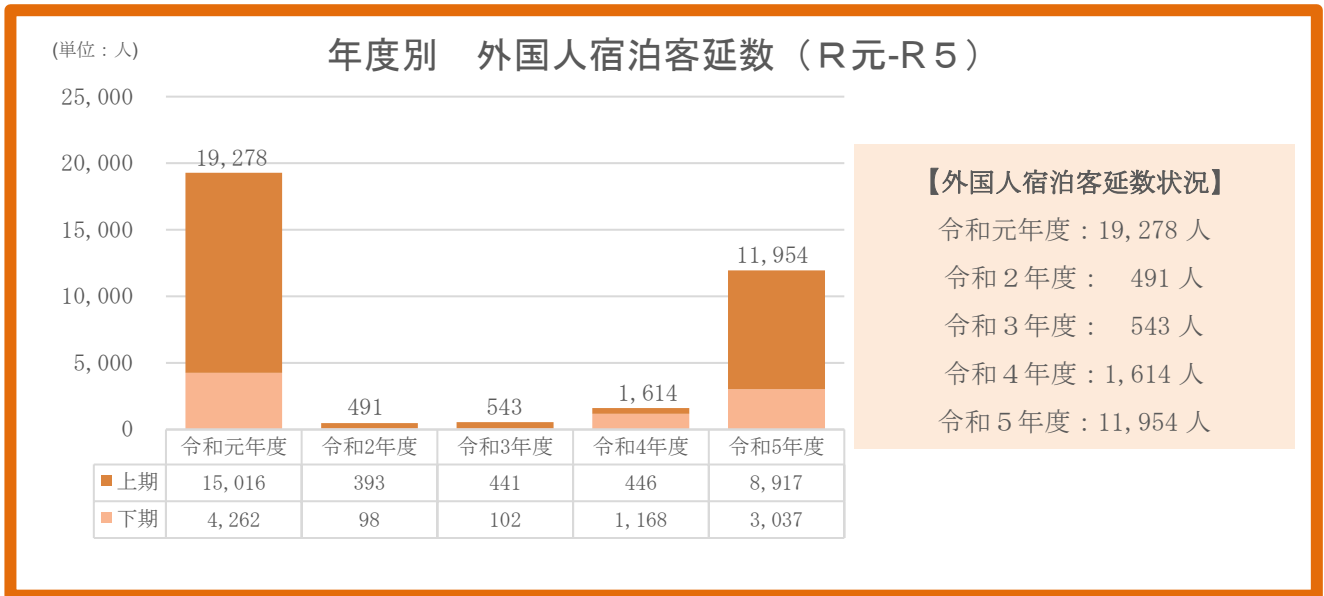
	上期	下期	合計
令和元年度	250,500人	115,800人	366,300人
令和2年度	144,600人	96,000人	240,600人
令和3年度	162,000人	112,400人	274,400人
令和4年度	220,200人	113,100人	333,300人
令和5年度	234,500人	117,400人	351,900人

#### (4) 外国人宿泊客延数の状況

外国人宿泊客延数は11,954人泊で前年度の1,614人泊より10,340人泊増加、前年度比740.6%となった。宿泊客の国別内訳は、台湾が3,801人泊(31.8%)と最も多く、続いて香港が1,517人泊(12.7%)、中国が964人泊(8.1%)である。

【上期】8,917人泊で前年度の446人泊より8,471人泊増加、前年度比1,999.3%。

【下期】3,037人泊で前年度の1,168人泊より1,869人泊増加、前年度比260.0%。



## Ⅱ. 観光客動態調査（アンケート）分析

### 【注意】

本章では、観光客へのアンケート調査で得たデータにより観光客の動態を分析する。前章で用いたデータは観光客のカウント調査、各交通事業者やホテル旅館業者への聞き取り調査の結果によるものであるため、本章の分析結果と若干の差がある。また、きた・北海道 DMO で実施しているデジタルアンケートとも、データ収集の方法やアンケート対象、アンケートに含まれる地域の範囲などが異なることから、同様に若干の差がある。

#### 【観光動態調査 調査内容】

調査地域：宗谷岬

調査日数：2日間×12か月

調査人数：300人

調査方法：宗谷岬に滞在している観光客からランダムで300人を選定し、アンケート用紙を配布して調査

### (1) 地域別観光客の入込状況

#### ① 道内観光客の入込状況

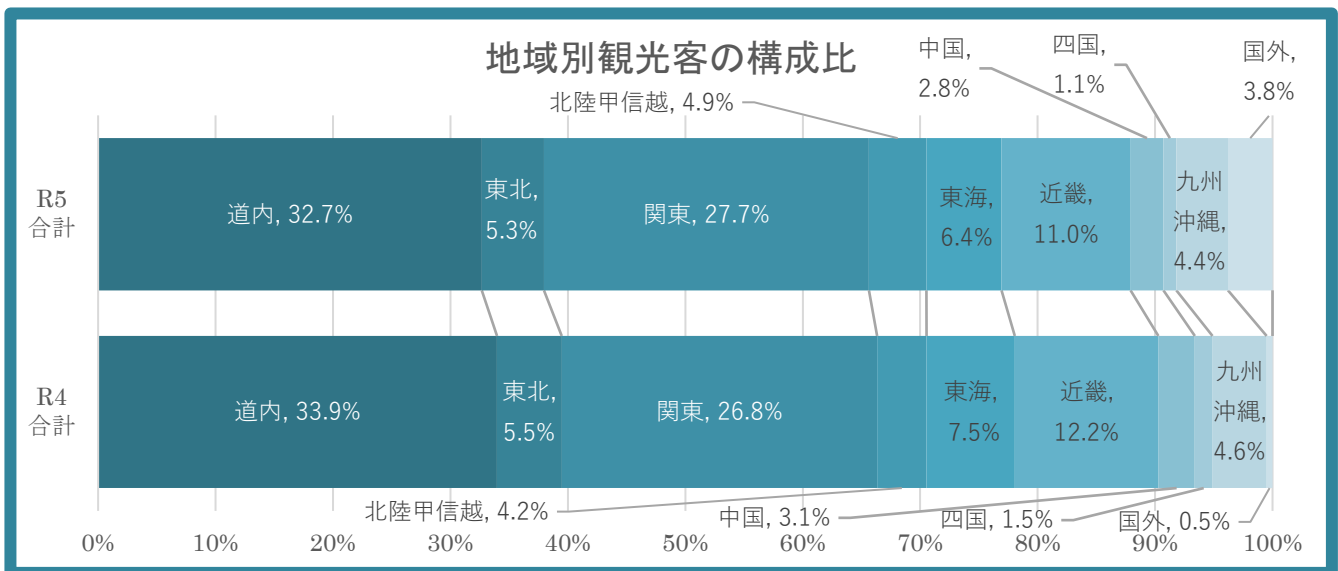
令和5年度の道内客の割合は令和4年度から1.2%減となった。

#### ② 道外観光客の入込状況

令和5年度の道外客の割合は関東、東海、近畿地域に若干の増減はあったが、大きな変化はなかった。

#### ③ 外国人観光客の入込状況

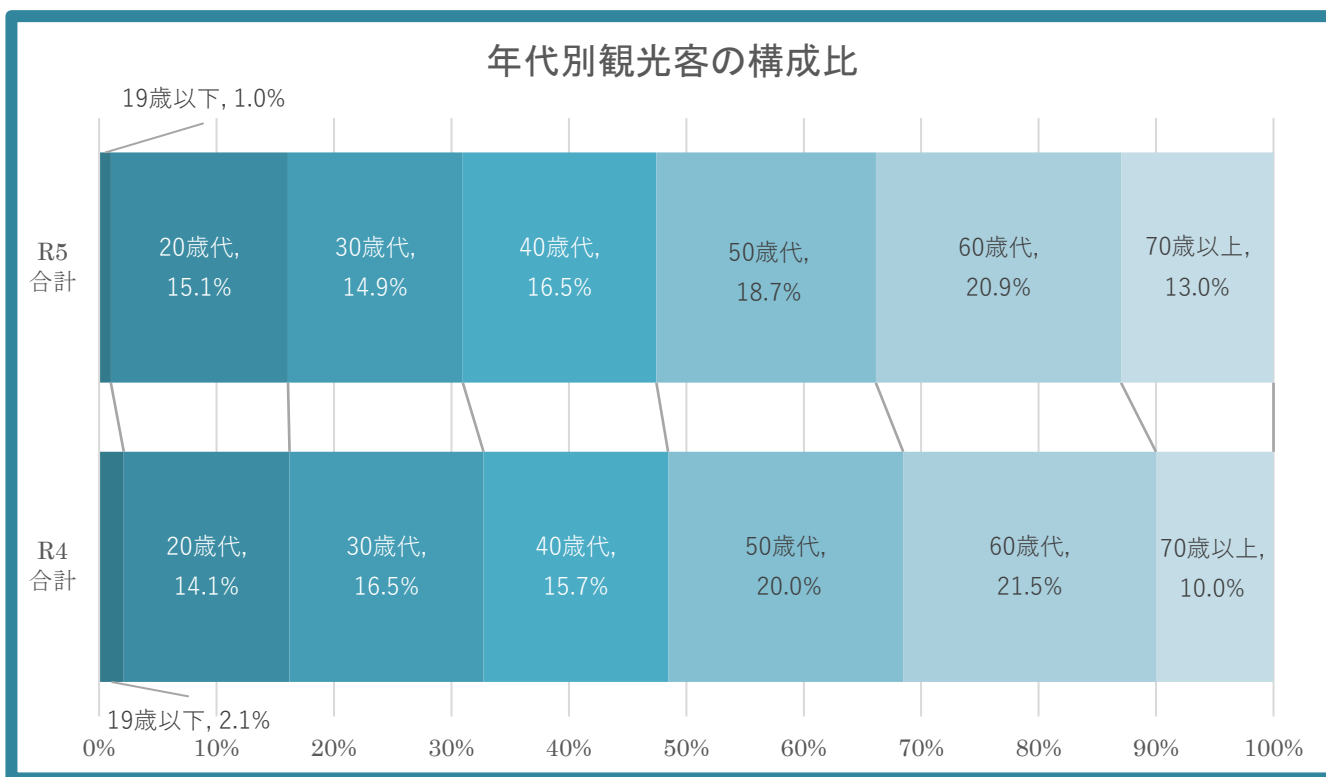
外国人観光客の割合は令和4年度と比べ大幅に増加した。





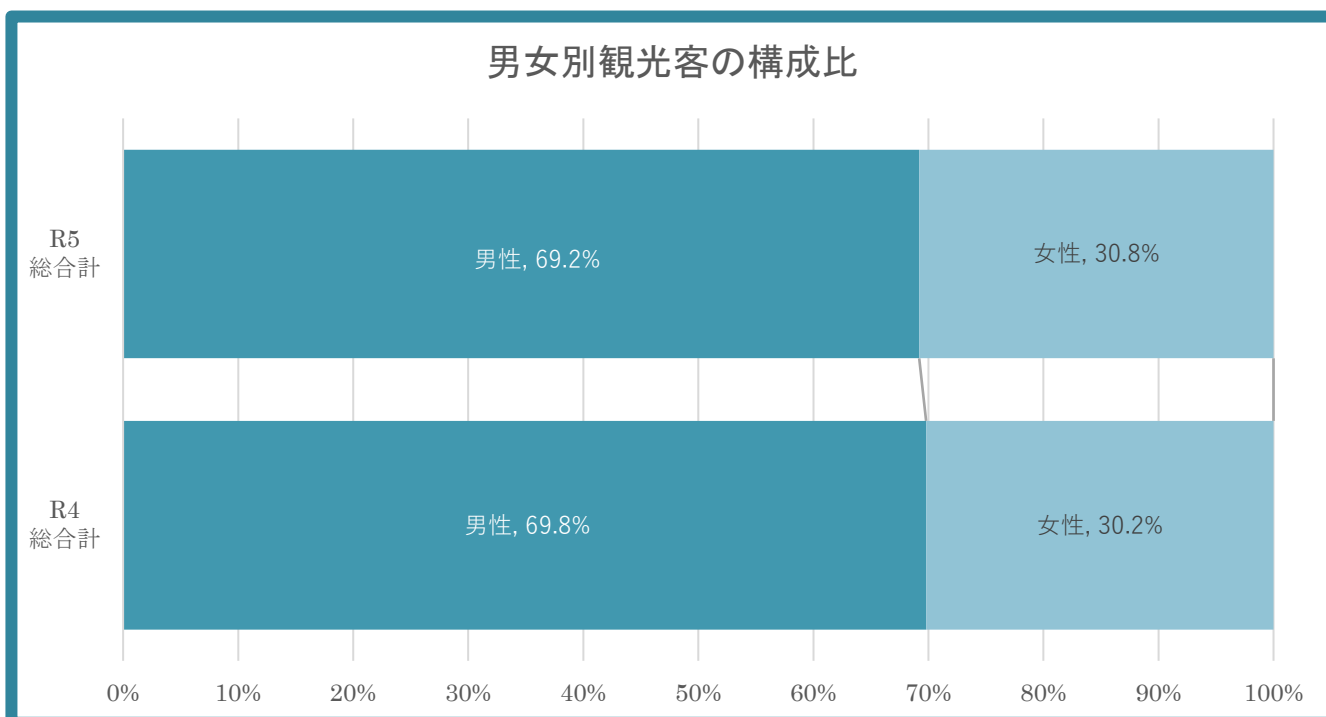
## (2) 年代別観光客の入込状況

年代別観光客の入込状況は、20歳代が1.0%増加、40歳代が0.8%増加、70歳以上が3%増加した。一方、19歳以下が1.1%減少、30歳代が1.6%減少、50歳代が1.3%、60歳代が0.6%減少している。



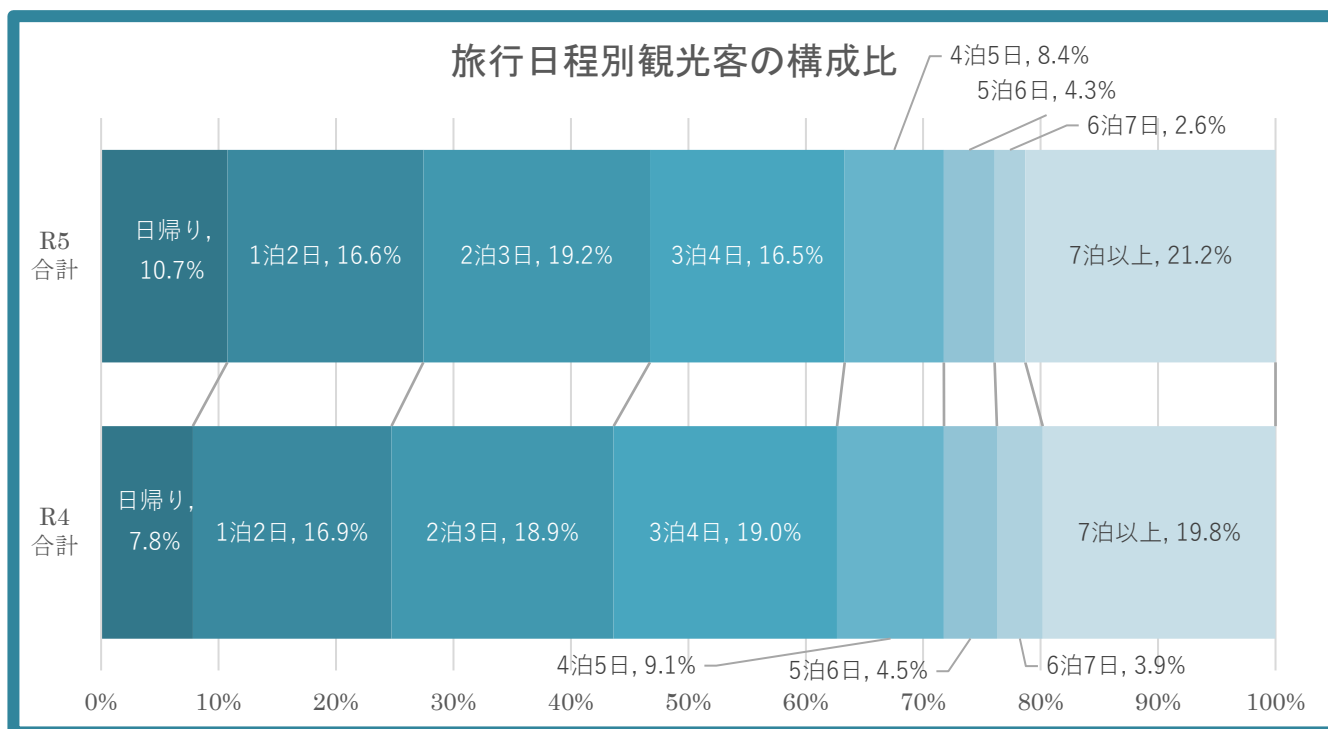
## (3) 男女別観光客の入込状況

男女別観光客の割合に大きな変化がなかった。



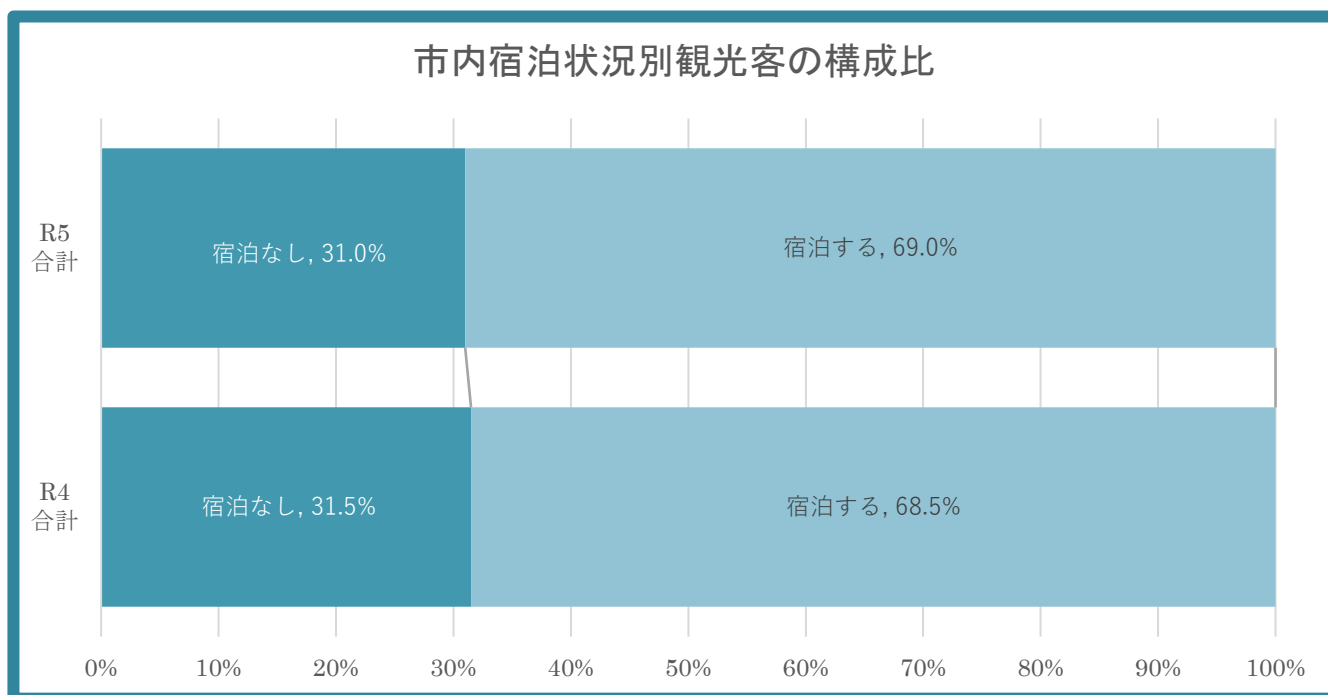
#### (4) 旅行日程別観光客の入込状況

旅行日程別観光客の入込状況は、日帰りが2.9%、2泊3日が0.3%、7泊以上が1.4%増加した。一方、1泊2日が0.3%、3泊4日が2.5%、4泊5日が0.7%、5泊6日が0.2%、6泊7日が1.3%減少した。



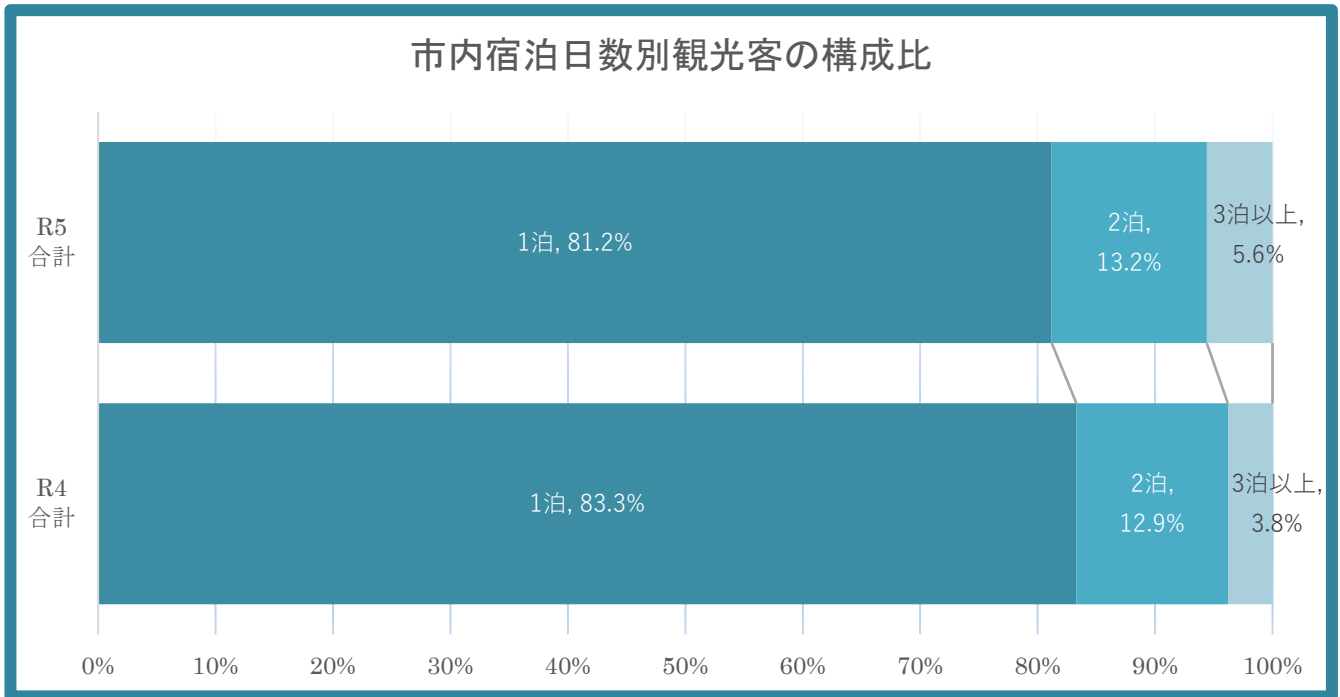
#### (5) 市内宿泊状況別観光客の入込状況

市内宿泊状況別観光客の割合に大きな変化がなかった。



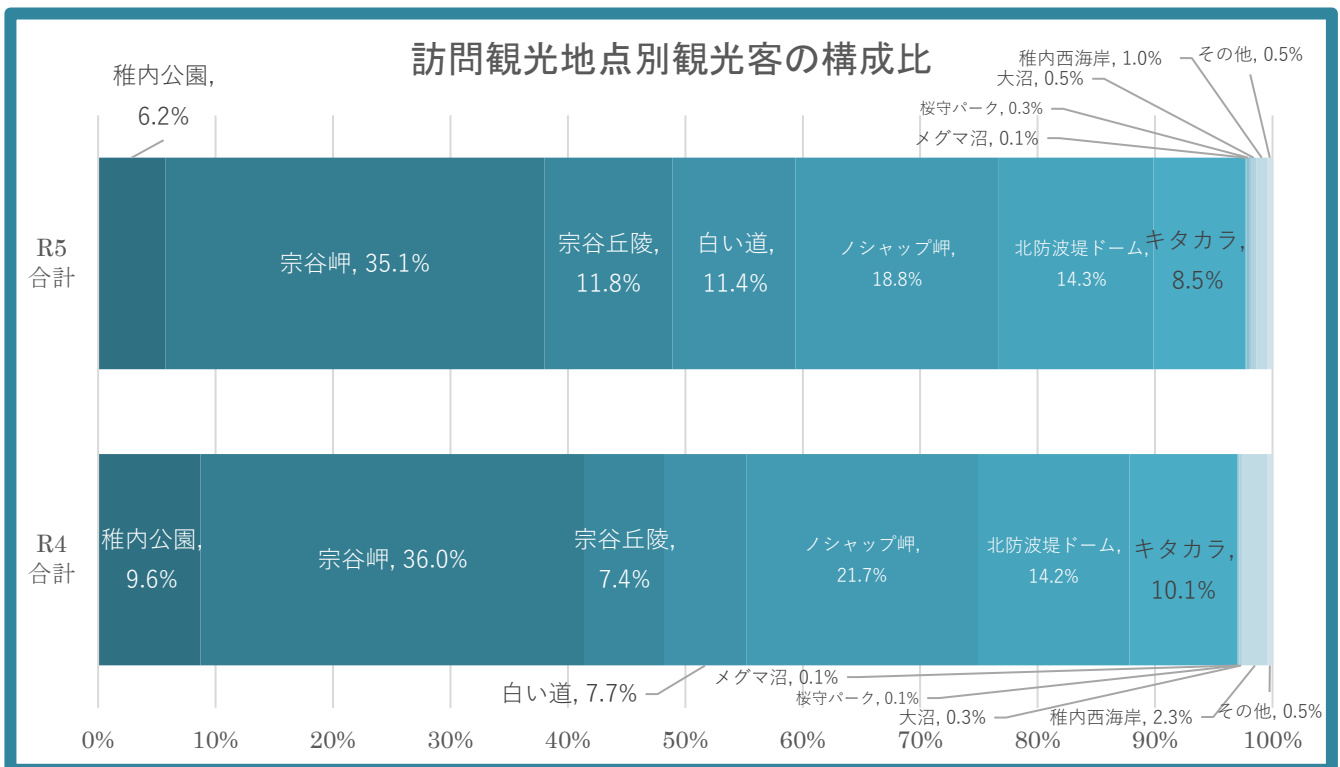
(6) 市内宿泊日数別観光客の入込状況

市内宿泊日数別観光客の入込状況は、本市に宿泊する観光客のうち2泊や3泊以上の割合が若干増加し、1泊の割合が若干減少したが、大きくは変わっていない。



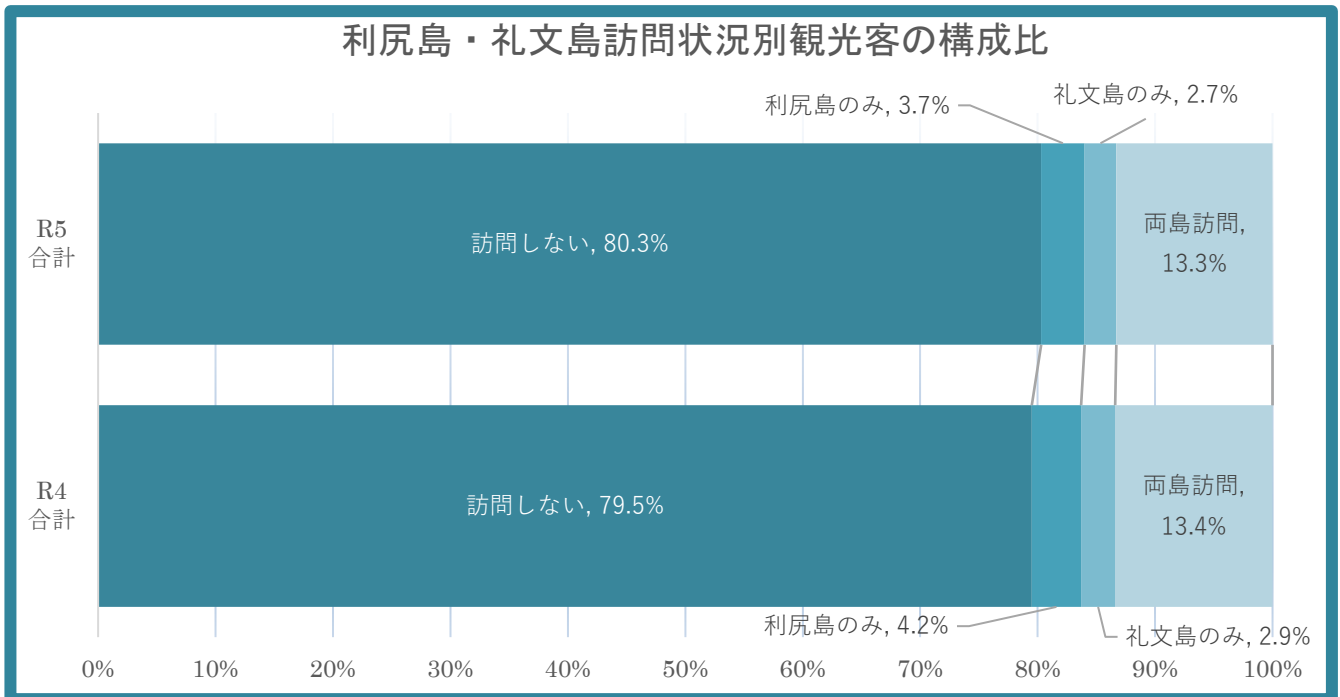
(7) 訪問観光地点別観光客の入込状況

訪問観光地点別観光客の入込状況は、宗谷丘陵が4.4%、白い道が3.7%増加し、稚内公園が3.4%、ノシャップ岬が2.9%、キタカラが1.6%減少した。



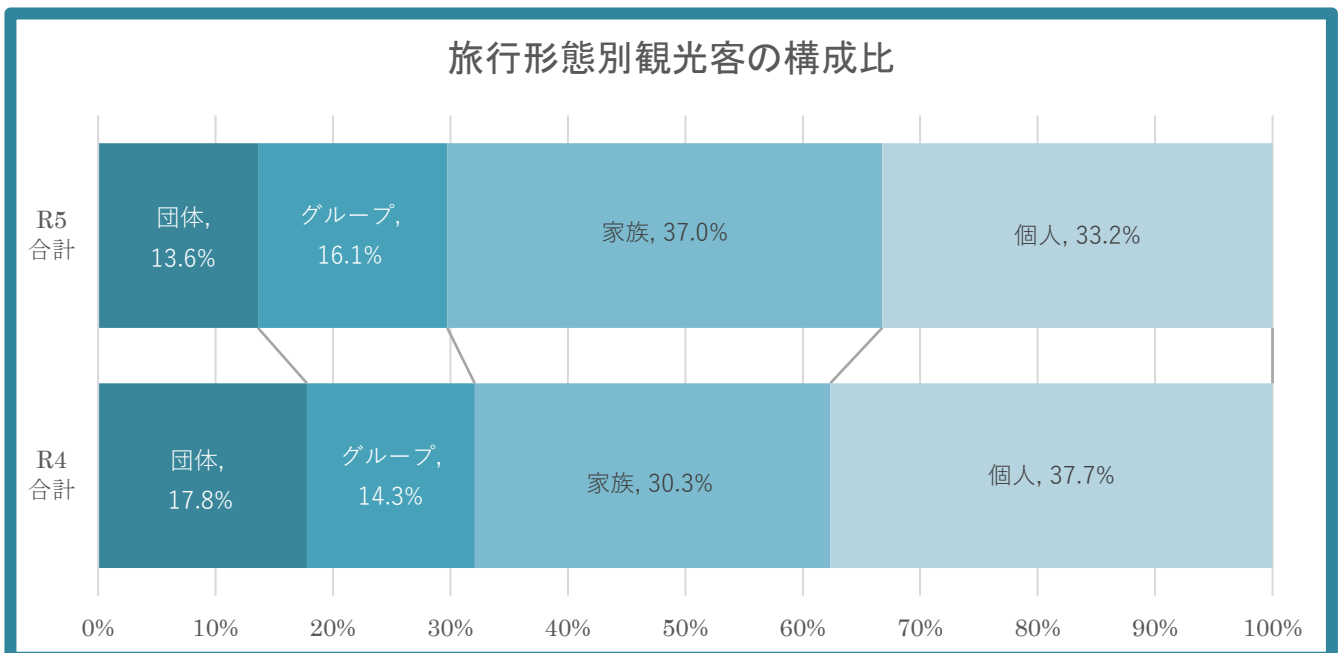
(8) 利尻島・礼文島訪問状況別観光客の入込状況

利尻・礼文訪問状況別観光客の入込状況の割合に大きな変化がなかった。



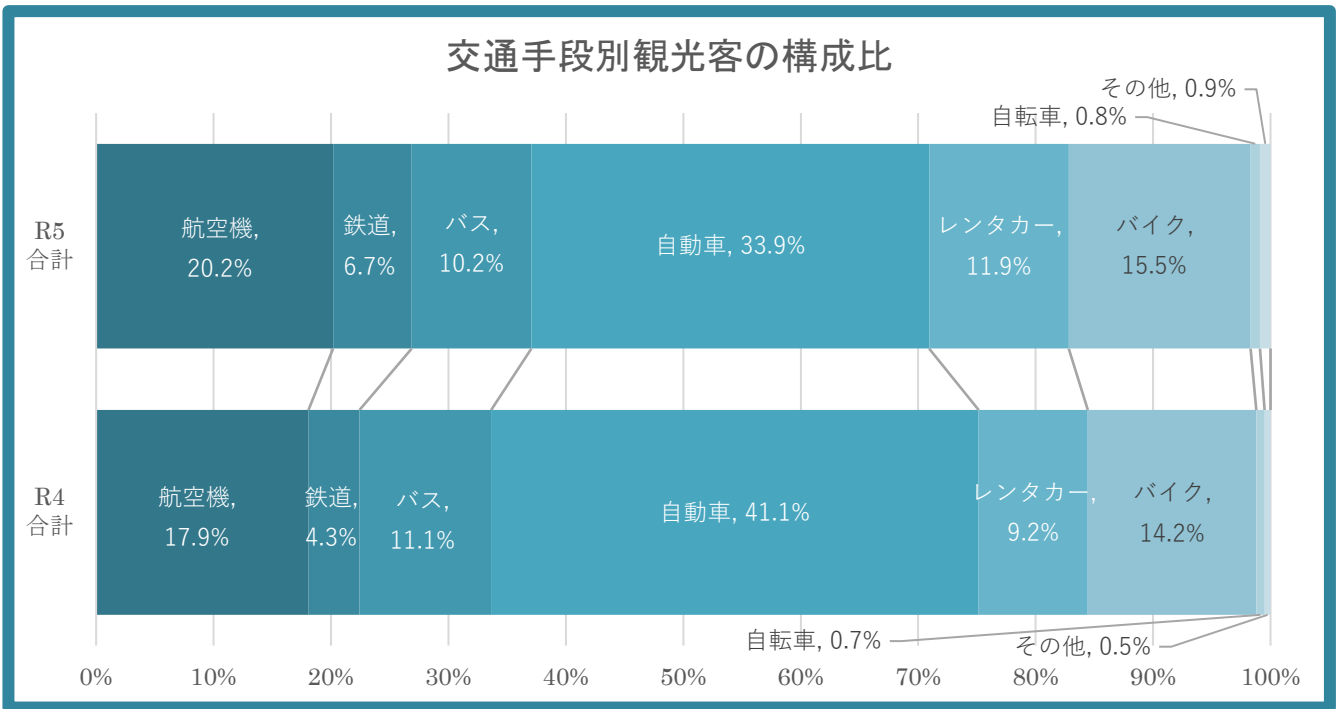
(9) 旅行形態別観光客の入込状況

旅行形態別観光客の入込状況は、グループが 1.8%、家族旅行が 6.7%増加した。一方、団体が 4.2%、個人が 4.5%減少した。



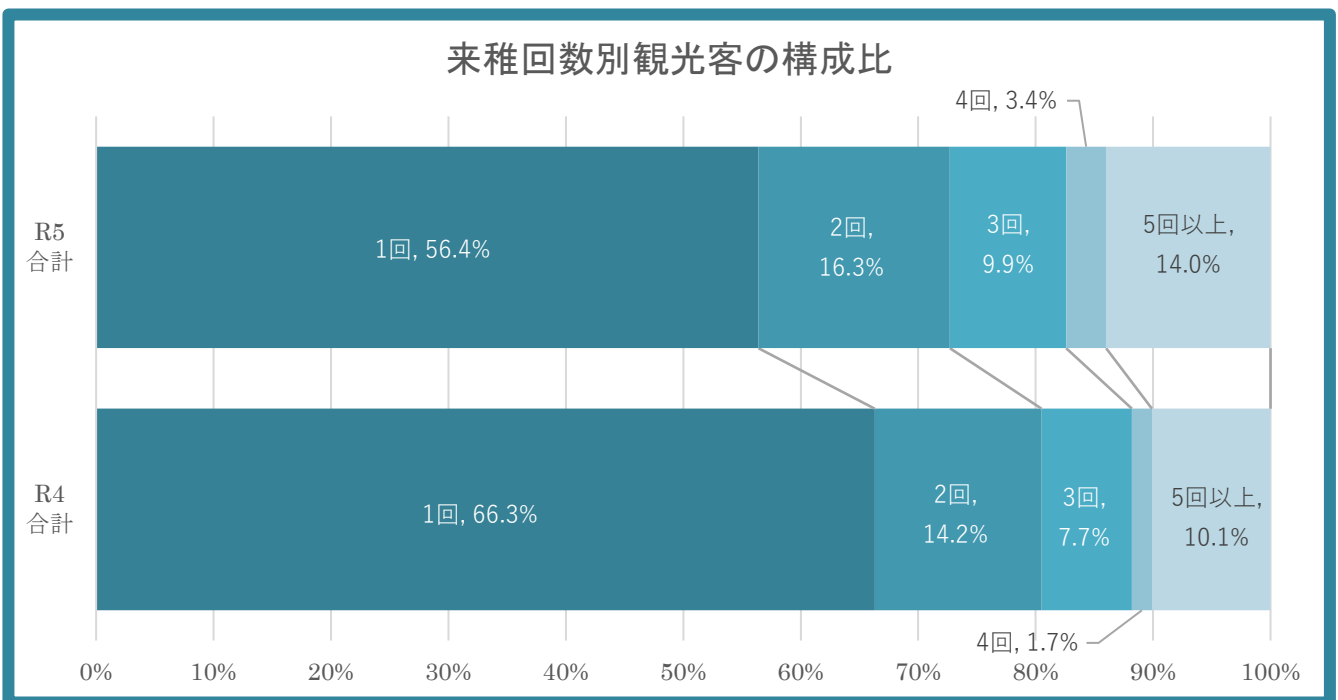
(10) 交通手段別観光客の入込状況

交通手段別観光客の入込状況は、航空機が2.3%、鉄道が2.4%、レンタカーが2.7%、バイクが1.3%、自転車が増加した。一方、バスが0.9%、自動車が増加した。



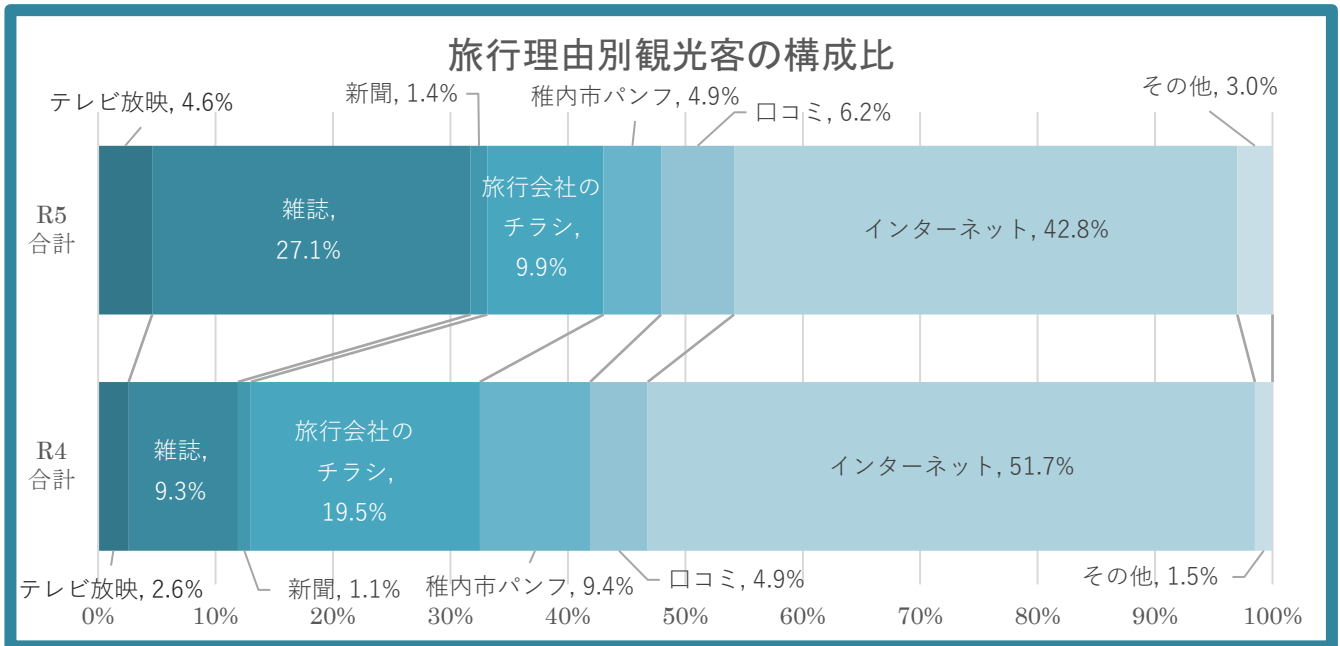
(11) 来稚回数別観光客の入込状況

来稚回数別観光客の入込状況は、2回が2.1%、3回が2.2%、4回が1.7%、5回以上が3.9%増加した。一方、初めて本市を訪れた観光客の割合が9.9%減少した。



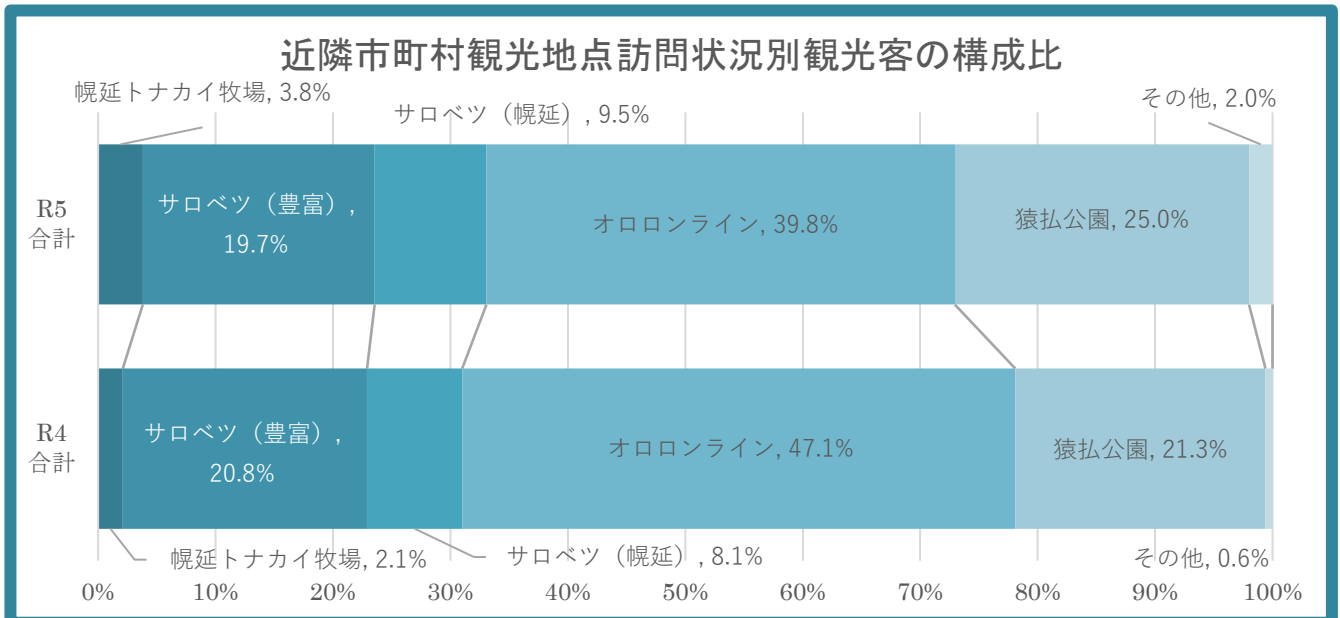
### (12) 旅行理由別観光客の入込状況

旅行理由別観光客の入込状況は、雑誌の情報を理由とした観光客が大幅に増加した。その分、旅行会社のチラシやインターネットによる情報が減少した。



### (13) 近隣市町村観光地点訪問状況別観光客の入込状況

近隣市町村観光地点訪問状況別観光客では、幌延トナカイ牧場が 1.7%、サロベツ（幌延）が 1.4%、猿払公園が 3.7%増加した。一方、サロベツ（豊富）が 1.1%、オロロンラインが 7.3%減少した。



### Ⅲ. 総合的な検証

#### (1) 観光入込客数状況

令和5年度観光入込客数の総数は491,300人であり、令和4年度の448,600人と比較すると42,700人の増(9.5%増)と、大幅に回復する結果となった。感染拡大前である令和元年度の501,700人と比較しても97.9%まで回復している。これは、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが、2類相当から5類に移行したことで、行動制限がなくなり、家族やグループでの観光をはじめ、ビジネスでの往来、コロナ禍では自粛が続いていた団体ツアーの催行が回復してきたことが要因とみられる。また、国による入国制限が解除されたことや円安が続いていることによる、外国人観光客の大幅な増加が、入込客数の底上げに貢献したとみられる。

#### (2) 観光入込客数の内訳

令和5年度の道内客は160,800人であり、令和4年度の151,800人と比較すると9,000人増(5.9%増)となった。感染拡大前の令和元年度の道内客は133,200人であることから、コロナ前よりも道内客が増加していることとなる。これは、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、旅行形態が団体ツアーから家族やグループなどの少人数旅行に移行していることや、円安や宿泊料金の高騰などにより、近距離旅行が感染拡大前に比べて増加したことが要因と考えられる。特に、新型コロナウイルス感染症の分類が変更となった5月には、道内客及び日帰りが大きく増加しており、コロナ禍により旅行を控えていた反動が数値として現れたのではないかと考えられる。

令和5年度の道外客は330,500人であり、令和4年度の296,800人よりも33,700人増(11.4%増)となった。令和元年度の道外客は368,500人であり、比較すると89.7%まで回復していることがわかるが、個人やグループでの旅行が夏場の観光シーズンに集中したことで宿泊施設が不足したことにより、道外客が主体である団体ツアーの催行が遅れたため、道内客ほどの増加はなかったと考えられる。

令和5年度の外国人観光客の宿泊延数は11,954人泊となり、令和4年度の1,614人泊よりも10,340人泊増740.6%増となった。令和元年度は19,278人泊であることから、感染拡大前の水準には回復していないが、大幅に増加傾向となっており、特に、台湾やシンガポール、アメリカ、オーストラリアはコロナ禍前の水準に戻りつつあり、本格的にインバウンド需要が高まるのは間違いなく、本市においても外国人観光客の取り込み、そしてそれがもたらす経済波及効果に期待をしたい。

#### (3) 今後の取り組み

令和5年度の観光入込客数は、国や北海道による旅行支援が終了していく中で、感染拡大前の令和元年度と比較して97.9%まで回復していることから、本格的に旅行需要が回復してきているものと考えられる。

一方で、新型コロナウイルス感染症を経験したことで、旅行形態の変化や観光ニーズの多様化など、新たな受け入れ体制の構築が必要となっている。さらには、昨今の社会情勢の変化により、全国的な物価の高騰や宿泊施設、飲食店等の人手不足、また、一部観光地の急激な旅行需要の高まりによるオーバーツーリズムなど、観光業をめぐる様々な課題が浮き彫りとなっている。

今後は、令和6年3月に策定した「稚内市観光振興ビジョン」で掲げた「観光都市わっかない」を実現するため、観光に関わる様々な課題に対応できるよう体制を強化するとともに、観光入込客数の増加を目指す

す「量の観光」の推進と同時に、長期滞在やリピーターの増加、消費行動の促進を行い、観光客一人ひとりが及ぼす経済波及効果の最大化を目指す「質の観光」を推進する。そのためには、本市最大の観光資源でもある宗谷岬周辺の魅力向上を図るための整備をはじめ、通年を通して楽しめる観光コンテンツの提供、また、本年3月29日付けで「登録DMO」として本登録された「きた・北海道DMO」や、稚内観光協会などの関係事業者と連携を密にしながら、本地域にとって必要不可欠である公共交通機関の利用促進や二次交通の充実、観光客に刺さる旅マエ情報や旅ナカ情報などデジタルメディアを中心とした観光情報の発信に努めていきたい。

また、国も重要な施策として取り組んでいるインバウンドの誘客については、令和5年9月にアジアで初の開催となったATWS（アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット）を契機に、本市においてもカナダからの来訪者が増加するなど、若干の影響がみられており、今後も欧米豪をメインとするアドベンチャー・トラベルの大きな市場からの誘客を図るため、体験型観光コンテンツの整備・造成、ガイドの育成などに取り組むとともに、これまでもターゲット国としてきた、台湾やシンガポールの東アジア圏に向けて、継続的なプロモーションの実施や、それを受け入れる体制の整備を行い、インバウンドの対策を進めていきたい。